

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0570608505 | | |
| 法人名 | 有限会社テレサ | | |
| 事業所名 | グループホームテレサ | | |
| 所在地 | 男鹿市脇本脇本字向山166番地12 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年2月5日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.akita-longlife.net/evaluation/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会 | | |
| 所在地 | 秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年3月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員全員が利用者個々の能力や状態を理解し、利用者本位のケアができるよう質の向上に努め、入居前の生活と変わらぬ生活が維持・継続できるように、介護計画を作成し、サービスの提供に力を入れている。
 ・秋田湾を望む高台に立地し、好天時は霊峰鳥海山を眺望でき、自然環境に恵まれた男鹿国定公園内にあり、鶴ノ崎海岸・入道崎・大湊村といった観光地に恵まれ、四季折々の風景を堪能できるところがアピールポイントです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の機能低下に伴って介護の負担が増え、夜間は職員が一人で不安を抱えているようですが、利用者の生活が維持できるよう精いっぱい努力しています。家族等も高齢になってきていることを踏まえ、利用者が安心して過ごせるよう関係機関とも協力して適切に対応し、ゆっくり過ごせる環境づくりを心がけています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---|-----------------------|--|
| 47 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 54 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ |
| 48 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 55 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ |
| 49 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 56 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 50 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 57 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ |
| 51 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 58 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 52 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 59 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 53 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| | | | | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| | | | | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| | | | | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| | | | | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| | | | | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を共有できるよう現場に提示している。ケアに悩んだとき理念を確認し方向づけしている。 | サービスを提供する上での原点であることから、理念に基づいた支援ができるよう取り組んでいます。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ感染予防のため、中学校のボランティア活動や幼稚園の訪問も中止している。周辺の散歩時、小学生や近所の方々と挨拶を交わしている。 | これまでのような交流はありませんが、訪問美容師や昔語りの方には来ていただいています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している | 交流は控えており、ほとんど貢献できていない。施設見学希望の方へは入所にはいたらなかったものの、認知症状へのアドバイスができた。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度実施している。今年度も書面のみでの報告になっている。メンバーには直接書面を届け顔の見える関係は継続できるよう務めた。 | 資料送付にとどまっており、会議メンバーから意見を収集していないため、会議が運営に活かされておりません。 | 対面会議の開催が困難なことはやむを得ないものの、資料送付にとどまらず、会議メンバーから意見、提案が得られる工夫をして会議を運営に活かす取り組みを期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の担当窓口に出向いたり、電話での相談をしている。 地域包括センター主催の研修に参加し情報収集・協力体制が築けるようにしている。 | 生活保護受給者の入居にあたり、担当部署に相談した事例がある等、行政と協力関係を築きながら利用者の支援に繋がっています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束等適正化委員会を定期的開催し、内容を職員で確認し合っている。 施設内研修を行い、身体拘束排除・虐待防止について確認した。 やむを得ない場合、家族からの同意をいただいている。 | 利用者の状態に応じて対応を話し合っており、止むを得ない場合の帳票も整備しています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を1名活用している。 利用者家族より成年後見制度について相談を受けたが活用にはいたらなかった。施設内研修を開催している。 | | |
| 8 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明ができるよう事務所で時間を取り対応できるよう願っている。ご家族の不安や希望など必ず確認している。 | | |
| 9 | (6) | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている | 意見箱を設けているが利用はない。 会話や電話で直接伝えていただける機会が多く、運営に活かしている。 | コロナ禍でもあることから面会や外出に関する要望がある他、排泄用品の使用に関する意見等にも、納得していただけるよう説明しています。 | |
| 10 | (7) | ○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている | 管理職会議を行い、現場の意見や状況を伝えられています。 環境整備等に反映されています。 | 毎月各ユニットで会議を開催して支援内容等について話し合っています。側溝の蓋、外灯の設置等の提案が出されており、職員の意見は管理職会議を通じて代表に伝えられています。 | 利用者の生活の質に繋げるために、職員の意見が反映される取り組みを期待します。 |
| 11 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホーム協議会の総会や研修に積極的に参加し交流することができた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面接では必ず2名の職員で訪問し直接ご本人と面談。関わりのある方々からも情報を収集し職員全員で確認し検討している。 | | |
| 13 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前に施設を見学していただき、面談を行い困り事や心配事について話し合う。これまでの生活歴や要望についての確認を行う。 | | |
| 14 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ユニット全体を家族と認識し日常生活の中で、できる限り共同で物事をおこなっている。職員は支える立場でお手伝いできる様に心がけ関係を築いている。 | | |
| 15 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月お便りで状況を報告している。問題が発生した時や要望についても随時確認し提案があった時は取り入れられる様に話し合い対応している。 | | |
| 16 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている | 家族宛での状態報告書に御本人からお手紙を書いて頂いている。また、電話の交流を続けている。こちらから出かける機会はほとんどなかった。手紙を書いてくださるご家族もいる。 | 訪問美容師や昔語りの方の来訪や行きつけの美容院の利用も継続しながら、関係性が保てるよう努めています。また、通院に協力してくれる家族もおります。 | |
| 17 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 普段の生活の中で利用者同士が声を掛け合っている姿が見られる。職員はできるだけ見守り、トラブルのない事を確認する。レクの中でもお互いに名前を呼び合うなど関わりが持てるよう工夫している。 | | |
| 18 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 自宅復帰した方とのご家族との交流を継続している。困りごとや不安などの相談も受けている。退所した方のその後の状態についてもほぼ情報が得られている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は日常的に一人一人との会話の機会を持ち、希望や意向を聞き出すことができている。変化や思いについて毎日の申し送りや記録を取り情報を共有し検討している。 | 日常の会話や生活を通して利用者の意向を把握するように努め、情報を共有しています。 | |
| 20 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の事前調査は本人・家族・担当ケアマネなどの聞き取りで生活状況を把握する。普段の会話や生活で気付いた事を家族に伝え、これまでの生活歴を知ることができる。 | | |
| 21 | (10) | ○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している | 現在の状況を職員全員で話し合い家族に都度、伝えている。本人・家族から話を聞き希望に沿ったホームでの生活が送れる様に職員の意見も反映させたケアプランを作成している。 | 各ユニットで記録の仕方が異なりますが、日々の申し送りで確認し、モニタリング、カンファレンスを通じて介護計画を作成しています。 | 介護計画作成の過程を職員が意識し、記録の仕方にも工夫されることを期待します。 |
| 22 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている | 職員は日々の様子や対応について記録する事ができており、全員で確認しあっている。様々なことを実践し見直す方向性ができており介護計画に活かされている。 | | |
| 23 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事、ホーム内外での催しへの参加、ボランティアとの交流など地域資源活用を常に心掛けているが今年度まだできていない。 | | |
| 24 | (11) | ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からのかかりつけ医で継続する事が多いがその後の状態により家族と話し合い対応している。訪問歯科、薬局を統一薬剤師との信頼関係を構築している。コロナ・インフルエンザ予防接種については全員、協力医より行ってもらっている。 | 入居時に確認し、希望に添って対応していません。家族が通院介助していることもあって状況によっては職員が同行することもあり、適切に医療支援しています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設看護師が週2回利用者と接し確認している。健康状態や受診報告を行ない細かなアドバイスや指示がある。適切な受診や看護が受けられるように努めている。 | | |
| 26 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は必要な情報を提供 入院中の状態の把握退院後に必要な対応など主治医・看護師・相談員と密に連絡を取り家族と相談しながら早期退院のための対応を話し合っている。 | | |
| 27 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に本人・家族の考え・希望を確認していますが状態の変化によりその都度話し合っています 重度化および終末期を想定しながらホームで対応できる支援作りに取り組んでいます。 | 終末期の支援には対応しておりませんが、ホームでの生活が困難になった場合には、本人、家族の心配がないよう対応しています。 | |
| 28 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 常に急変や事故発生を念頭に置き、職員全体が初期対応を考え、職務に当たっている。避難訓練を定期的に行っている。 | | |
| 29 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中・夜間を想定しての避難訓練を行った職員が意見を出し合い利用者・職員が安全に避難できる対策を話し合いながら訓練を計画している。 | 運営推進会議で地域に協力を依頼し、話し合いも行われています。安全な避難のための環境改善等、訓練を通じて確認できたこともあります。 | 特に夜間の災害において、利用者と職員が安全に避難できる具体的な対策を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者の尊厳を大切に言葉遣いに配慮している。 | 利用者の誇りを傷つけない対応を心がけています。特に言葉遣いには気をつけており、声かけの仕方が気になる場合には、その都度注意しています。 | |
| 31 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ひとりひとりの好みや自宅に居る時のように、その日にふさわしい身だしなみができるようにする。美容師の受け入れや理髪店に出かけたりしている。 | | |
| 32 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の食べ方やペースに合わせ食事席を移動したり職員がお手伝いできるような工夫をしています。食事の盛り付けや片付けもその方の力を生かし分担して行っている。行事食や季節の食材を取り入れた食事を工夫している。 | 利用者の嗜好を献立に活かせるよう努めています。だまこやおやつ作りを通じて、季節のものを一緒に楽しむことができるよう工夫しています。 | |
| 33 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量や食事量のチェックを行う必要であれば代替や補助栄養食、3度の食事以外にも提供できるようにしている。 | | |
| 34 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時毎食後の歯磨きができている 声掛けや介助が必要な方は支援し確認している。状況に応じて洗口液や口腔シートを利用している。 | | |
| 35 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 全員がトイレで排泄している。ご本人に合った排泄用品を利用し不安のないようにする。排泄動作を理解しサポートする。夜間はポータブルトイレを利用するなどしている。 | 個々の状態に合わせて支援しており、排泄用品の使い方に注意して尿路感染症を防いでいます。便失禁がなくなった方、失敗が少なくなった方等、チェック表を活用した支援が行われています。 | |
| 36 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給や運動など生活の中で注意している。ひとりひとりの状態にあった服薬方法を工夫し対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 受診や外出に合わせて日時を変更したり好みに合わせて順番を調整したりしている。入浴が嫌いな利用者にも声掛けや介助の方法を工夫して気持ちよく入浴していただけるように努めている。 | 週3回入浴できるようにしています。拒否する方もおりますが、日にちを変えたり、ホールでドライシャンプーを使用したり等、その時々々の状況を確認しながら支援しています。 | |
| 38 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中でも居室でテレビを見て過ごしたりホールソファで居眠りして過ごす方もいる。季節により寝具を変えたり室温やベッドの配置にも考慮している。 | | |
| 39 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者全員が同じ薬局を利用しており薬剤師からのアドバイスがある。職員は薬の変更時は申し送りをし状態の変化を確認しあっている。医師に状態の報告をし変更や調整日をお願いしている。 | | |
| 40 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の得意なことややりたいことを見極め分担する サポートすることでできることが増える喜びを見つけ出し生活意欲につながるケアに努めている。 | | |
| 41 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご家族と出かける方はなかった。個別または少人数で出かける機会を作り、その時の希望により変えられるよう対応している。 | 利用者の出かけたという気持ちに応え、ドライブしたり、ホーム周辺を散歩したりして外気浴の機会をつくっています。 | |
| 42 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 預かり金管理規程により入居者が自由に使用できるように支援している。ご家族の同意を得て小口現金を所持している入居者もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 加湿器やエアコンを設置し温度・加湿などの管理に配慮している。季節の工作が展示され楽しめるように工夫している。 | 加湿機能付きの清浄機がホールに設置され、冬季の乾燥対策をしています。掲示物は利用者の目線に合わせて低く設置し、トイレ前には腰掛けを置いています。 | |
| 44 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 洗濯干し近くでは日光浴を楽しんだりお茶をして過ごすことがある。ソファで居眠りしたりゆっくりしている。 | | |
| 45 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 在宅時に使用していたものを自由に持ち込まれている。思い出の品や写真がある。 | 居室にも乾燥対策のためのバスタオルが掛けられています。洋服掛けが設置され、十分な収納スペースがあって使い勝手の良い居室となっています。壁に写真を飾る等してそれぞれの生活の場をつくっています。 | |
| 46 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 掲示物は目線に合わせて低くトイレなどイラストを使用し分かるようにする。テープで印をつけてトイレに誘導するなど工夫している。 | | |